

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物形態機能学Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	中川 雄太
授 業 の 概 要				
動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化についても学ぶ基盤を確立する。 3億6000万年前に誕生した脊椎動物は種々の進化を経て現在に至っている。哺乳類がとげた進化の中で恒常性の維持（ホメオスタシス）に関わる形態、機能こそ生命を維持する基礎となっている。それらを学習することによって正常な形態、機能を理解し、そこから病態における有効な看護を考える。				
授業終了時の到達目標				
細胞の基本構造について説明できる。 循環器系について説明ができる。 呼吸器系について説明ができる。 消化器系について説明ができる。 泌尿器系について説明ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院にて獣医師として9年間勤務		
時間外に必要な学修				
前回の復習を行い次回に備える				
回	テ ー マ		内 容	
1	動物体の構造と機能を学ぶために		動物体の形態、構造、機能について、何を学ぶか 動物形態機能学概論動機付け	
2	体のつくりと働き		動物の分類、身体的位置を示す用語、身体の基本構造、 細胞～動物体へ	
3	生命のすがた① ～細胞～		体を作る構造 細胞	
4	生命のすがた②～組織～		多くの細胞からなる組織	
5～ 6	生命のすがた③～細胞分裂と増殖～		細胞分裂と増殖	
7～ 8	生命のすがた③～体の水分～		細胞内液、細胞外液、電解質	
9～ 12	栄養の消化と吸収		口・咽頭・食道の構造と機能 腹部消化管の構造と機能 膵臓・肝臓・胆のうの構造と機能	
13～ 18	呼吸と血液のはたらき		呼吸器の構造 呼吸 血液	
19～ 24	血液の循環とその調節		循環器の構成 心臓の構造 心臓の拍出機能 末梢循環系の 構造 血液循環の調節 リンパとリンパ管	
25～ 29	体液の調節と尿の生成		腎臓 排尿路 体液の調節	
30	期末試験		期末試験	
教科書・教材			評価基準	評価率
動物看護コアテキスト2「動物のからだの構造と機能」（ファームプレス） 専門基礎分野「動物形態機能学」（インターズー）			期末試験	100.0%
				その他

回	テ　　マ	内　　　　容		

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物行動学		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	矢吹 宴
授 業 の 概 要				
犬・猫の歴史、習性、行動、飼養方法について学ぶ				
授業終了時の到達目標				
動物の習性、行動について理解し、動物の行動の総合的理解をめざし、ペットショップや動物病院で接する動物に対して最適な扱いを行えるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	トリマーとしてペットショップ店長として経験、その他ドッグショーにおいて現役ハンズラーとして活動中。 また動物看護師としてのキャリアも持つことから、これまでの経験を活かした多方面からのアドバイスをを行う。			
時間外に必要な学修				
「動物の行動と健康管理」を熟読し、事前学習を行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1	動物行動学という学問について理解する		動機付け授業として、動物行動学の授業概要を説明 ・動物行動学学者について学ぶ	
2	犬と猫の行動学の基礎「動物の家畜化」について		犬・猫の進化の歴史と、野生動物から犬と猫への家畜化の過程を学ぶ	
3	犬学・猫学「犬と猫の行動学的特徴」を理解する		犬と猫の行動の特徴、外観的特徴について学ぶ	
4	犬・猫の成長に伴う行動の発達と機能を理解する		動物の行動には、生まれつき本能として備わっている「生得的行動」と生後の学習により獲得する「習得的行動」について学ぶ	
5	犬・猫の維持行動について学ぶ		犬猫の維持行動に伴う本能行動について学ぶ	
6	犬・猫の社会行動について学ぶ		社会行動で見られるコミュニケーションについて学ぶ 視覚的コミュニケーション、聴覚的コミュニケーション、嗅覚的コミュニケーションについて学ぶ	
7	犬・猫の生得的行動と習得的行動について学ぶ		行動学における学習理論について学ぶ	
8	犬・猫以外の小動物の社会行動		鳥の社会行動について学ぶ 種類による「集団行動」や「単独行動」の特徴	
9	動物行動学に携わった学者たちについて学ぶ		「生得的行動」と「習得的行動」についてのまとめ	
10	しつけ・トレーニング（訓練）の理論と応用を学ぶ1		しつけ、トレーニングの基本、学習理論について学ぶ	
11	しつけ・トレーニング（訓練）の理論と応用を学ぶ2		犬のしつけに応用できる古典的条件づけとオペラント条件づけについて学ぶ	
12	習得的行動のまとめ		行動学における学習理論としての習得的行動について学ぶ	
13	犬のコミュニケーション行動		犬のコミュニケーション行動の特徴について学ぶ	

回	テ ー マ	内 容		
14	犬のしつけ、訓練の必要性を理解する	しつけと訓練の目的。しつけを教える場合のルールについて学ぶ		
15	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物の行動と健康管理		期末試験	60.0%	
		確認テスト	20.0%	
		課題・レポート	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
動物看護学概論		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	西村 美笛	
授 業 の 概 要					
動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。					
授業終了時の到達目標					
1）動物看護の基本となる概念を理解する。 2）獣医療と動物看護の歴史について理解する。 3）動物看護の提供体制について理解する。 4）愛玩動物看護師の社会的立場について理解する。					
実務経験有無		実務経験内容			
有	岡山県倉敷市の動物病院にて2年間動物看護師として勤務				
時間外に必要な学修					
自分が動物看護師になるという意識を持ち、その職に恥じない行動をとるように意識する。 自分の周りの動物へ意識を向け、観察力を身に付ける。					
回	テ ー マ		内 容		
1	導入		科目を学ぶ目的、目標を理解するためのワークを実施		
2	獣医療の歴史と獣医療倫理		獣医療の発展してきた歴史と獣医医療倫理について		
3	動物看護の歴史と概念		動物看護の発展してきた歴史と、国際的な資格制度について		
4～6	国家資格 愛玩動物看護師について		国家資格 愛玩動物看護師誕生への道のり		
7	動物看護の対象と目的		愛玩動物看護師の役割、求められるもの		
8～11	動物病院の業務と看護師の役割		愛玩動物看護師の役割、愛玩動物看護師として必要な知識 関連職種と連携：獣医師との協働、トリマー・受付などとの協働 ケーススタディ：「この業務、看護師と獣医師のどちらがやるべき？」 どう連携すると飼い主満足度が上がる？		
12～13	動物看護の倫理		倫理綱領、動物福祉・QOL など		
14	動物看護の探求		動物看護師の未来とキャリア形成		
15	期末試験		動物看護学概論で学んだ内容を振り返ってのテスト		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
授業毎の配布プリント			期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物感染症学Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	高橋 陽子
授 業 の 概 要				
動物業界、特に動物医療の現場で働くにあたって、感染症の深い知識を備えておくことは非常に重要で、動物だけでなく、人の健康にも降りかかってくる問題でもある。それらをふまえて本科目では感染症そのものの理解だけでなく、感染症を予防するための予防知識をも幅広く学ぶものとする。				
授業終了時の到達目標				
・ 感染症を引き起こす微生物の基礎知識を理解し、眼に見えないものに対する予防概念の重要性を理解できるようにする。 ・ 臨床でよくみられる外部寄生虫、内部寄生虫の知識それぞれを臨床検査で役立て早期発見に繋げる。 ・ 外部寄生虫のうち、特によくみられるノミ・マダニの知識を飼い主への予防指導に役立てる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院での動物看護業務（6年） 専門学校講師（16年） 猫カフェの開業・経営（動物展示及び飲食店業務）（3年）		
時間外に必要な学修				
世界でどのような感染症が発生しているのかを注目する。 目に見えない微生物の発生と予防を意識する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	感染症の概念		感染症の定義と国内状況	
2	各微生物特徴と寄生虫概論		感染症を引き起こす原因微生物とその特徴	
3	外部寄生虫とノミ		寄生虫の種類と各分類や寄生の種類	
4	外部寄生虫① ノミ予防		ネコノミのライフサイクルと害、予防について学ぶ	
5	外部寄生虫② マダニ予防		マダニのライフサイクルと害、予防について学ぶ	
6	外部寄生虫③ ダニ類		毛包虫、ヒゼンダニ、耳ダニ	
7	外部寄生虫④ 昆虫類		シラミ ハジラミ	
8	内部寄生虫①		内部寄生虫の種類と検出方法、回虫について	
9	内部寄生虫②		線虫類（回虫、鉤虫、鞭虫）	
10	内部寄生虫③		条虫類（犬条虫、猫条虫、マンソン裂頭条虫、多包条虫	
11	内部寄生虫④		原虫類（コクシジウム：アイメリア、イソスポラ、トキソプラズマ）	
12	内部寄生虫⑤		原虫類（ジアルジア、腸トリコモナス）	
13	その他寄生虫		その他、自家感染するもの、糞線虫、東洋眼虫、	
14	筆記試験①		外部寄生虫の筆記試験	

回	テ ー マ	内 容		
15	筆記試験②	内部寄生虫の筆記試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント 基礎動物看護学 3 動物感染症学		期末試験① 期末試験② 確認テスト	40.0% 40.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護学Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	本山 みれな
授 業 の 概 要				
犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。				
授業終了時の到達目標				
1）動物の基本的な取り扱いができ、一般身体検査全般ができる 2）診察準備や衛生管理、保定、その他診療補助ができる 3）輸液や薬剤投与など内科診療技術を修得する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		佐賀県の動物病院で動物看護師として2年間勤務		
時間外に必要な学修				
毎回レポートを提出し復習する。 繰り返しの練習を行い技術を身に付ける				
回	テ ー マ		内 容	
1	動機づけ 授業の流れ、実習室について①		動機づけ、実習のルール、実習室について、掃除の仕方	
2	事前学習問題確認テスト 実習犬猫とのふれあい		入学前学習の確認テスト 犬猫ふれあい	
3	保定の基礎		保定の基礎知識、保定の種類、保定に使用する道具	
4	バイタルチェック		バイタルチェック	
5	日常の健康管理		耳、肛門嚢、眼 など	
6	病気の予防について RVについて		病院で行う予防できる病気について	
7	不妊手術について		避妊・去勢手術について	
8	全身検査①		全身検査	
9	全身検査②		全身検査	
10	入院管理①		入院管理（GW） （入院環境の適正管理、ストレス緩和方 法、散歩、運動、排泄管理 等）	
11	入院管理②		入院管理（GW） （幼齢・老齢動物看護、栄養管理、排泄援助、清潔援助、糞法）	
12	応急処置		応急処置	
13	投薬、フィラリア予防		錠剤、粉薬、目薬 など投薬方法	
14	期末試験		筆記試験実施（持ち込み可）	

回	テ　　マ	内　　　容		
15	看護特別講演会	看護特別講演会　3, 4限		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護学テキスト		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
愛玩動物学Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 由紀子
授 業 の 概 要				
人間の伴侶となり、共に暮らす動物について知識を深め、専門職として活躍できる能力を身に付ける。日頃の健康管理について、動物看護師として飼い主に飼育指導できる人材となることを目指す。近年の伴侶動物の種類多様化に伴い、小動物臨床現場で遭遇する動物種も増加傾向にあり、それぞれの看護対象を正しく理解し扱える動物看護師の需要は高まっている。イヌやネコのみならず、すべての動物に関して自らが継続して学習する姿勢を取り、さまざまな分野に対して興味を示し自主的に行動を起こせる人材となり、動物看護師に対する社会のニーズに対応することを目指す。本学科においてイヌ・ネコ・ウサギ・フェレット・ハムスター・モルモット・チンチラ・フクロモモンガ・テグー・ハリネズミについて学習する。				
授業終了時の到達目標				
・イヌの生態を理解し、適切な飼育管理法を飼い主にアドバイスできるようになる。				
・ネコの生態を理解し、適切な飼育管理法を飼い主にアドバイスできるようになる。				
・ウサギの生態を理解し、適切な飼育管理法を飼い主にアドバイスできるようになる。				
・フェレットの生態を理解し、適切な飼育管理法を飼い主にアドバイスできるようになる。				
・ハムスター・モルモット・チンチラの生態を理解し、適切な飼育管理法を飼い主にアドバイスできるようになる。				
・フクロモモンガ・テグー・ハリネズミの生態を理解し、適切な飼育管理法を飼い主にアドバイスできるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院における獣医師としての診療業務 5年 医療用医薬品メーカーにおけるMR(医療情報担当者)への教育訓練業務 7年		
時間外に必要な学修				
各項目についての復習 学外において伴侶動物学で学習した動物と遭遇した場合は、観察を怠らず学習内容と照らし合わせてみる				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業ガイダンス 犬の歴史について		伴侶動物Ⅰで学習する内容の概略を説明する。 イヌの歴史について学習する。	
2～4	イヌ		犬の生態、習性について学習し、それらに則した飼育方法、看護方法を学習する。	
5～7	ネコ		ネコの生態、習性、種類について学習する。 ネコの修正に則した飼育方法、看護方法を学習する。	
8～9	ウサギ		ウサギの生態、習性、種類について学習する。 ウサギの生態、習性に則した飼育方法、看護方法を学習する。	
10～11	フェレット		フェレット生態、習性、種類について学習する。 フェレットの生態、習性に則した飼育方法、看護方法を学習する。	
12	ハムスター・モルモット・チンチラ		ハムスター・モリモット・チンチラ生態、習性、種類について学習する。 ハムスター・モリモット・チンチラの生態、習性に則した飼育方法、看護方法を学習する。	
13	フクロモモンガ・デグー・ハリネズミ		フクロモモンガ・デグー・ハリネズミ生態、習性、種類について学習する。 フクロモモンガ・デグー・ハリネズミの生態、習性に則した飼育方法、看護方法を学習する。	

回	テ ー マ	内 容		
14	まとめと確認	授業内容習得を確認		
15	期末試験	期末試験実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護コアテキスト4（ファームプレス） 応用動物看護学（インターズー） 動物看護の教科書4 応用動物看護学（緑書房）		期末試験	60.0%	
		課題・レポート	40.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護学実習Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	本山 みれな
授 業 の 概 要				
犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。				
授業終了時の到達目標				
1）動物の基本的な取り扱いができ、一般身体検査全般ができる 2）診察準備や衛生管理、保定、その他診療補助ができる 3）輸液や薬剤投与など内科診療技術を修得する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		佐賀県の動物病院で動物看護師として2年間勤務		
時間外に必要な学修				
毎回レポートを提出し復習する。 繰り返しの練習を行い技術を身に付ける				
回	テ ー マ		内 容	
1	動機づけ 授業の流れ、実習室について①		動機づけ、実習のルール、実習室について、掃除の仕方	
2	実習室について②		実習室について、掃除の仕方	
3	倫理綱領、看護について 診療記録について		倫理綱領、看護師業務について、カルテ用語、カルテ記入方法	
4	保定の基礎		保定の基礎知識、保定の種類、保定に使用する道具	
5	バイタルチェック、ノミダニ予防		バイタルチェック、ノミダニ予防	
6	日常の健康管理		耳、肛門嚢、眼 など	
7	全身検査①		全身検査	
8	全身検査②		全身検査	
9	病気の予防について RVについて、ノミダニ予防		病院で行う予防できる病気について、ノミダニ予防	
10	不妊手術について		避妊・去勢手術について	
11	入院管理①、フィラリア予防		入院管理（幼齢・老齢動物看護）、フィラリア薬投与	
12	入院管理②		入院管理 （入院環境の適正管理、ストレス緩和の方法、散歩、運動、排泄管理 等）	
13	応急処置		応急処置	
14	投薬		錠剤、粉薬、目薬 など投薬方法	

回	テ　　マ	内　　　容		
15	期末試験	筆記試験実施（持ち込み可）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護学テキスト		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物看護総合実習Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	0.75単位（30時間）	必須	田上 真紀
授 業 の 概 要				
「働くこと」を自分のことのように捉え、自分らしい「キャリアの在り方」についての洞察を深め、将来社会に出て実践できるように、社会人として求められる姿勢や資質・能力を身につける。				
授業終了時の到達目標				
①自己のキャリアを考える上での基礎的理解ができ、仕事選択のやり方を習得できる。 ②「自分らしさ」についての理解を深め、それを表現し、言語化・文章化できる。 ③仕事で求められる心構え・姿勢や能力が理解でき、それを学習活動につなげられる。 ④仕事選択を身近に考えるようになり、キャリア・プランを具体的に立てられる。 ⑤校外研修に向けた履歴書を作成できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		岡山市内の動物病院で1年、広島市内の動物病院で3年半獣医師として勤務		
時間外に必要な学修				
愛玩動物看護師としての自分の姿を想像し、現場に必要な知識や技術が何かを追求する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	導入①		導入、HR	
2	導入②		アイスブレイク	
3	自己研究①		3年間でやりたいことをポスター化する	
4	自己研究②		3年間でやりたいことをポスター化する	
5	履歴書作成①		自分理解を深める	
6	履歴書作成②		自分理解を深める	
7	履歴書作成③		履歴書を作成する	
8	履歴書作成④		履歴書を作成する	
9	履歴書作成⑤		履歴書を作成する	
10	研修先選定①		研修先の選定を行う	
11	研修先選定②		研修先の選定を行う	
12	研修日程決定		研修先と連絡を取り、日程を確定させる	
13	研修の心構え		研修中にすべきこと。日誌の書き方等	
14	研修終了後の対応		お礼状の書き方等	

回	テ ー マ	内 容		
15	最終研修準備	研修準備の最終確認を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
トリミング実習Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	角田 有優美
授 業 の 概 要				
・ 道具と犬体の扱い方、グルーミング作業の指導 ・ 授業開始前に前回の授業の反省点や良い点などを周知。 ・ 一日の目標と反省を記入するノートを作成させ復習を習慣づける				
授業終了時の到達目標				
・ 実習準備ができるようになる ・ 各作業の流れを理解できるようになる ・ 各道具の使い方が理解できるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	福山市内ペットショップスタッフ・トリマーとして3年半勤務			
時間外に必要な学修				
普段からペット美容に興味を持ち、自宅などで飼育しているペットの手入れを行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1～6	・ 動機付け ・ 実習について （流れ、道具・犬の扱い、作業内容）		実習中の注意事項等を資料を用いて説明し、見学、実践を通して実習の流れを理解する。	
7～15	モデル犬のグルーミング （道具を正しく扱いながら作業する。）		グルーミングに必要な各作業の実習。 3～4名で1匹のグルーミング。	
16～21	モデル犬のグルーミング② （道具を正しく扱いながら作業する。）		実習道具の正しい扱い方を意識しながら、2～3人1組で1頭のモデル犬を仕上げる。	
22～30	モデル犬のグルーミング③ （犬に負担のないような保定を意識し、作業を行う。）		犬の体に負担のない体勢で保定を行い、作業をする。	
教科書・教材		評価基準		評価率
グルーミングマニュアル		実習・実技評価 課題・レポート 期末試験		40.0% 20.0% 40.0%
				その他
				実習・実技評価は 実習中の授業態度 や協調性、モデル 犬の扱いなどを総 合的に評価します

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
犬種標準学		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	松岡 樹
授 業 の 概 要				
・ 犬種のスタンダードについて学ぶ ・ 犬の各部の基礎知識を学ぶ ・ 様々な犬の種類、その犬種の特徴（被毛、毛色、原産地、名前の由来など）について学ぶ				
授業終了時の到達目標				
・ 犬種のスタンダードについて理解する ・ 犬種について理解し、覚え、説明することができる				
実務経験有無		実務経験内容		
無				
時間外に必要な学修				
毎時間、授業始めに前回の復習を兼ねての小テストを行います。 小テストに出た問題を期末試験に出す場合もあります。 しっかり復習するようにしてください。				
回	テ ー マ		内 容	
1	犬種標準学とは		・ 犬種標準学とは ・ 科目の目的、目標	
2	犬の体に関する基礎知識		被毛、目の形・色、耳の形、尾、噛み合わせ	
3	グループ		犬種の用途やルーツによるグループ分け	
4	犬の種類		使役犬（ゴールデン、シェパードなど）	
5	犬の種類②		セラピー犬（コーギー、プードルなど）	
6	犬の種類③		(1, 2グループ)	
7	犬の種類④		(3, 5グループ)	
8	犬の種類⑤		(6, 7グループ)	
9	犬の種類⑥		(8, 9, 10グループ)	
10	犬体について		・ 犬の各部名称、骨格名称 ・ 犬体図作成	
11	犬体について②		犬体模写	
12	犬体について③		犬体作り	
13	犬種図鑑作成		自分なりの犬種図鑑を作成	
14	総復習		試験前復習	

回	テ　　マ	内　　　容		
15	期末試験	犬種標準学Ⅰで学習した内容の復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新犬種図鑑		課題・レポート	20.0%	
		期末試験	60.0%	
		確認テスト	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
P C 実習		動物看護総合学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	甲斐 滋美
授 業 の 概 要				
Microsoft Office Wordアプリを使用し 文字入力から文書作成までの基本を学ぶ。日本語の入力および 文書作成における基礎的な能力を身につける。入力速度を上げることで 仕事をする上で必要な最低限のスキルを習得する。				
授業終了時の到達目標				
日本語ワープロ検定の合格				
実務経験有無		実務経験内容		
有	病院にて秘書として3年、医療事務として20年の実務経験 秘書・事務として病院施設でOffice製品を駆使していた場面を用いて学生がイメージしやすいように授業を展開する。 専門学校および幅広い年齢層の学習指導経験から、将来的に役立つ実力を身に着けるような指導を行う。			
時間外に必要な学修				
授業終了後の復習を行い 次回の授業までに必ず課題を提出する。授業課題を確認し 進捗を意識して自宅で課題を進める。自宅や休憩時間にタイピング練習を習慣づける。				
回	テ ー マ		内 容	
1	ワープロ検定の概要 合格基準・出題範囲について		ワープロ検定の概要を説明 速度問題で入力体験（実力確認）	
2	Microsoft Office Wordの基本操作 ワープロ検定の設定についての知識		Word2019でのページ設定の説明 ワープロ検定速度、文書作成問題で入力練習	
3	速度問題 文書問題		ワープロ検定、文書問題でレイアウト等の要点説明 同じ問題でTime練習	
4	速度問題 文書問題		速度練習 3級文書問題でレイアウト、表の入力学習	
5	速度問題 文書問題		準2級文書作成問題 レイアウト学習速度問題で入力練習	
6	速度問題 文書問題		2級文書作成問題を使用し きりとり線の練習	
7	速度問題 文書問題		準1級および1級の文書作成問題を使用し 地図の練習 各自レベルに合わせて個別に練習	
8	検定リハーサル		各レベル別問題で模擬練習	
9	検定リハーサル		各レベル別問題で模擬練習	
10	検定リハーサル		各自レベル別に確認検定当日の要点指導	
11	速度問題 文書問題		次の目標級学習へ	
12	速度問題 文書問題		次の目標級学習	
13	速度問題 文書問題 実習課題		次の目標級学習実習課題	

回	テ ー マ	内 容		
14	速度問題 文書問題 実習課題	次の目標級学習実習課題		
15	期末課題	期末課題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 課題 課題・レポート	20.0% 30.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
サービス接遇		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	角田 有優美
授 業 の 概 要				
サービス接遇3級試験の合格に向けて、サービス業務に対する心構え、対人心理、応対の技術、口のきき方、態度・振舞などを理解する。サービス（相手に満足を提供する）と接遇（相手に満足を提供する行動）を理解する				
授業終了時の到達目標				
サービス接遇3級試験合格。サービス業のスタッフとしてサービス接遇をこなせる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	福山市内ペットショップスタッフ・トリマーとして3年半勤務			
時間外に必要な学修				
検定合格の知識を身につけるため、テキストを熟読し、過去問題で試験問題に慣れる				
回	テ ー マ		内 容	
1	導入			
2	サービススタッフの資質		必要とされる要件	
3	専門知識		サービス知識	
4	一般知識		社会知識	
5	対人技能		人間関係、接遇知識	
6	実務技能		問題処理	
7	模擬テスト		各自過去問題を解く	
8	模擬テスト		各自過去問題を解く	
9	模擬テスト		各自過去問題を解く	
10	模擬テスト		各自過去問題を解く	
11	模擬テスト		各自過去問題を解く	
12	模擬テスト		各自過去問題を解く	
13	ロールプレイング実習①		挨拶、お辞儀について	
14	ロールプレイング実習②		電話対応	

回	テ　　マ	内　　　容		
15	ロールプレイング実習③	姿勢と笑顔		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
サービス接遇３級試験ガイド 問題	過去	検定結果	40.0%	
		期末試験	30.0%	
		確認テスト	30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
動物形態機能学Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	30回	4単位（60時間）	必須	中川 雄太	
授 業 の 概 要					
動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化についても学ぶ基盤を確立する。 3億6000万年前に誕生した脊椎動物は種々の進化を経て現在に至っている。哺乳類がとげた進化の中で恒常性の維持（ホメオスタシス）に関わる形態、機能こそ生命を維持する基礎となっている。それらを学習することによって正常な形態、機能を理解し、そこから病態における有効な看護を考える。					
授業終了時の到達目標					
内分泌系について説明ができる。 自律神経系について説明ができる。 骨格系・筋系について説明できる。 外部環境からの防御について説明できる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		動物病院にて獣医師として9年間勤務			
時間外に必要な学修					
前回の復習を行うことで次回の授業に備える					
回	テ ー マ		内 容		
1～8	内臓機能の調節		自律神経による調節 内分泌系による調節 全身の内分泌腺と内分泌細胞 ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際		
9～15	身体の支持と運動		骨格とはどのようなものか 骨の連結 骨格筋 体幹の骨格と筋 前肢の骨格と筋 後肢の骨格と筋 頭頸部の骨格と筋 筋の収縮		
16～23	情報の受容と処理		神経系の構造と機能 脊髄と脳 脊髄神経と脳神経 脳の高次機能 運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路 眼の構造と視覚 耳の構造と聴覚・平衡感覚 味覚と嗅覚 疼痛（痛み）		
24～29	外部環境からの防御		皮膚の構造と機能 生体の防御機構 体温とその調節		
30	期末試験		期末試験		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
動物看護コアテキスト2「動物の「からだの構造と機能」（ファームプレス） 専門基礎分野「動物形態機能学」（インターズー）			期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物栄養学Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	高橋 陽子
授 業 の 概 要				
昨今のペットの長寿化には、予防も含めた獣医療の進展とともに、良質なペットフードの普及や飼い主の食餌管理への意識の向上で犬や猫の栄養状態がよくなってきたことも大きな要因といえる。しかし食事や栄養素の過剰や不足・アンバランスが原因となって生じる疾病もまた増加傾向にある。本科目では、動物の栄養状態を適切に保ち、動物のQOLの維持と長寿化に貢献するため、動物に必要な栄養素・エネルギー要求量といった栄養学総論を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・犬猫それぞれの採食法や嗜好の違いから、適切な給餌方法を理解する。 ・ペットフードに関わる法律や記載方法、分類、目的の違いを理解する。 ・犬猫の6大栄養素についての基礎知識を身につけ、それぞれ人とのどのように異なるか、また、犬猫それぞれの違いを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院での動物看護業務（6年） 猫カフェ開業・経営（動物展示及び飲食店業務）（3年）		
時間外に必要な学修				
普段購入している食品の裏表記に注目する。普段食べている食材や料理の栄養素を考える。ペットフードの表記をたくさん見る。消化器の形態機能を復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	導入 栄養と栄養素		科目の導入 栄養素とその役割、身体を構成する栄養素の割合	
2	犬猫の違いと給餌方法		犬猫の消化の違いと適した給餌方法、嗜好の違いについて	
3	消化酵素とエネルギー		消化酵素とその役割について 体内のエネルギー利用	
4	動物のエネルギー利用		エネルギーの過不足とエネルギーの取り入れ方	
5	タンパク質		タンパク質の役割とアミノ酸	
6	タンパク質②		タンパク質の過不足による疾患	
7	脂肪		脂肪酸の役割と過不足による影響	
8	炭水化物		糖の分類と体内でのエネルギー利用、過不足による影響と疾患	
9	ビタミン		ビタミンの分類とそれぞれの役割について ビタミンの過不足による疾患	
10	ミネラル		ミネラルの分類とそれぞれの役割について ミネラルの過不足による疾患	
11	エネルギー計算		動物のエネルギー利用と要求量 エネルギー計算実地	
12	ペットフードについて①		ペットフードとその背景・法律について ペットフードの目的	
13	ペットフードについて②		成分表記・原料・分類の違いについて	
14	まとめ、ゆとりコマ			

回	テ ー マ	内 容		
15	試験	筆記試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ コンパニオンアニマルの新健康管理学（インターズー） ・ 動物栄養学（インターズー） ・ 動物看護コアテキスト（ファームプレス） ・ 動物看護の教科書（緑書房） ・ 動物看護のための小動物栄養学（ファームプレス）		期末試験 確認テスト	70.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物感染症学Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	高橋 陽子
授 業 の 概 要				
動物業界、特に動物医療の現場で働くにあたって、感染症の深い知識を備えておくことは非常に重要で、動物だけでなく、人の健康にも降りかかってくる問題でもある。それらをふまえて本科目では感染症そのものの理解だけでなく、感染症を予防するための予防知識をも幅広く学ぶものとする。また、感染防御の役割を果たす免疫学の基礎を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・フィラリア症について理解し、その予防の重要性とともに予防方法を飼い主に提唱できる。 ・感染症を引き起こす微生物の基礎知識をもとに、感染の伝搬様式や発病のメカニズムを理解する。 ・感染防御に関わる免疫学の基礎について理解し、ワクチンの理解につなげる。 ・ワクチンの接種プログラムを理解し、飼い主に正しいワクチン接種を提唱できるようになる。 ・狂犬病の理解とともに狂犬病予防法に基づいた狂犬病ワクチン接種について、飼い主にその必要性を提唱できるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院での動物看護業務（6年） 猫カフェの開業・経営（動物展示及び飲食店業務）（3年）		
時間外に必要な学修				
世界でどのような感染症が発生しているのかを注目する。 目に見えない微生物の発生と予防を意識する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	後期概要／フィラリア症		フィラリアとそのライフサイクル	
2	フィラリア症とその予防①		フィラリア症とその予防	
3	フィラリア症とその予防②		フィラリア予防薬と飼い主対応	
4	感染のメカニズムと感染の種類		感染の成り立ちから発症についてのメカニズム 感染の種類	
5	感染経路		感染経路と体内での拡散について	
6	感染症に関わる法律		家畜伝染病予防法／感染症法	
7	感染防御		自然免疫と獲得免疫（細胞性免疫と液性免疫） 抗原と抗体	
8	免疫とワクチン		初乳とワクチン／生ワクチンと不活化ワクチン	
9	ワクチン接種プログラム		ワクチン接種の流れ、接種後の注意点	
10	ワクチンで予防できる感染症		混合ワクチン内容を覚える	
11	狂犬病予防1		狂犬病と狂犬病予防法	
12	狂犬病予防2		狂犬病と狂犬病予防法	
13	病原体の種類		病原性微生物一覧とそれらの大きさ、特徴	

回	テ ー マ	内 容		
14	微生物学の歴史, プリオン	微生物の誕生とそれらに関わる人物、微生物検査 プリオンの特徴とプリオン症		
15	試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
コンパニオンアニマルの新健康管理学 動物栄養学（インターズー） 動物看護コアテキスト 自作プリント		期末試験 確認テスト	70.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護学Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	本山 みれな
授 業 の 概 要				
犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。				
授業終了時の到達目標				
1) 動物の基本的な取り扱いができ、一般身体検査ができる 2) 診察準備や衛生管理、保定、その他診療補助ができる 3) 輸液や薬剤投与など内科診療技術を習得する				
実務経験有無		実務経験内容		
有	佐賀県の動物病院で2年間動物看護師として勤務			
時間外に必要な学修				
授業の振り返りをレポートにまとめ提出				
回	テ ー マ		内 容	
1	導入		導入、飼育実習の説明	
2	厳しめの保定		犬猫の駆血保定	
3	投薬①		投薬方法、針、シリンジについて	
4	投薬②		ワクチン準備	
5	糞便検査		糞便検査手技、採便方法、実習	
6	尿検査		尿検査手技、採尿方法、実習 フィラリア予防	
7	血液検査①		血液検査について、採血と保定	
8	血液検査②		血液検査について、白血球カウント	
9	血液検査③		血液検査について、マイクロチップ	
10	輸液①		輸液について（目的、輸液ライン、皮下点滴、三方活栓）	
11	輸液②		輸液について（留置針、輸液ポンプ、シリンジポンプ）	
12	輸液③		輸液について（計算） A:ノミ・マダニ予防	
13	輸液④		輸液について（計算） B:ノミ・マダニ予防	
14	実技試験		実技試験（保定・vac）	

回	テ　　マ	内　　　容		
15	期末試験	期末試験実施（持ち込み可）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
愛玩動物学Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 由紀子
授 業 の 概 要				
人間の伴侶となり、共に暮らす動物について知識を深め、専門職として活躍できる能力を身に付ける。日頃な健康管理について、動物看護師として飼い主に飼育指導できる人材となることを目指す。近年の伴侶動物の種類多様化に伴い、小動物臨床現場で遭遇する動物種も増加傾向にあり、それぞれの看護対象を正しく理解し扱える動物看護師の需要は高まっている。イヌやネコのみならず、すべての動物に関して自らが継続して学習する姿勢を取り、さまざまな分野に対して興味を示し自主的に行動を起こせる人材となり、動物看護師に対する社会のニーズに対応することを目指す。本学科において鳥類、爬虫類、エキゾチックアニマルの繁殖について学習する。				
授業終了時の到達目標				
・鳥類の生態を理解し、適切な飼育管理法を飼い主にアドバイスできるようになる。 ・爬虫類の生態を理解し、適切な飼育管理法を飼い主にアドバイスできるようになる。 ・エキゾチックアニマルに属するそれぞれの動物の雌雄生殖器の構造と機能、性行動及び発情、交尾、妊娠、分娩の過程を学び、飼い主に適切なアドバイスができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院における獣医師としての診療業務 5年 医療用医薬品メーカーにおけるMR(医療情報担当者)への教育訓練業務 7年		
時間外に必要な学修				
各項目についての復習 学外において伴侶動物学で学習した動物と遭遇した場合は、観察を怠らず学習内容と照らし合わせてみる				
回	テ ー マ		内 容	
1	鳥類		鳥類の生態、習性、種類 鳥類の飼育方法、看護方法	
2	鳥類		鳥類の生態、習性、種類 鳥類の飼育方法、看護方法	
3	鳥類		鳥類の生態、習性、種類 鳥類の飼育方法、看護方法	
4	鳥類		鳥類の生態、習性、種類 鳥類の飼育方法、看護方法	
5	鳥類		鳥類の生態、習性、種類 鳥類の飼育方法、看護方法	
6	鳥類		鳥類の生態、習性、種類 鳥類の飼育方法、看護方法	
7	爬虫類		爬虫類の生態、習性、種類 爬虫類の飼育方法、看護方法	
8	爬虫類		爬虫類の生態、習性、種類 爬虫類の飼育方法、看護方法	
9	爬虫類		爬虫類の生態、習性、種類 爬虫類の飼育方法、看護方法	
10	爬虫類		爬虫類の生態、習性、種類 爬虫類の飼育方法、看護方法	
11	爬虫類		爬虫類の生態、習性、種類 爬虫類の飼育方法、看護方法	
12	エキゾチックアニマルの繁殖		イヌ・ネコ以外の伴侶動物の繁殖について学習し、それぞれの動物の繁殖を考慮した飼育方法、看護方法を習得する。	

回	テ ー マ	内 容		
13	エキゾチックアニマルの繁殖	イヌ・ネコ以外の伴侶動物の繁殖について学習し、それぞれの動物の繁殖を考慮した飼育方法、看護方法を習得する。		
14	確認とまとめ			
15	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護コアテキスト4（ファームプレス） 応用動物看護学3（インターズー） 動物看護の教科書4 応用動物看護学（緑書房）		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物形態機能学実習		動物看護総合学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	田上 真紀
授 業 の 概 要				
動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ				
授業終了時の到達目標				
犬猫の基礎的な形態機能知識を実習と通して身に付ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		岡山市内の動物病院で1年、広島市内の動物病院で3年半獣医師として勤務		
時間外に必要な学修				
レポートを提出することで履修内容を身に付ける				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	導入 動物の取扱い		科目の目的、動物の取扱い、便・尿の片付け方、掃除	
3～ 4	犬体各部の名称（事前学習テスト）		事前学習テスト 犬猫体各部の名称を模型を利用して確認	
5～ 6	骨格、関節可動域の確認		関節と構成する骨の名前、関節可動域の確認	
7～ 8	骨格筋と平滑筋		骨格筋と平滑筋の違い 骨格筋の働き。協力して働く筋肉と反対の作用の筋肉	
9～ 10	歯について		歯の発生。本数。歯のケア方法。	
11～ 12	内臓の配置①		内臓の配置を模型を使用して確認する 大まかな場所が言えるようになる	
13～ 14	内臓の配置② レントゲンの見方		内臓の配置をレントゲンを使用して確認する レントゲンフィルムが読めるようになる	
15～ 16	心臓と脈管の構造		心臓の構造と血液の流れを理解する 鶏の心臓を使用して構造の確認	
17～ 18	生殖器の構造		生殖器の構造 雌雄差と動物差を理解する	
19～ 20	顕微鏡		顕微鏡の取り扱い方法 観察方法	
21～ 22	組織①		組織標本の読み方 核、細胞質、色による違い。構造の見方	
23～ 24	組織②		血液の見分け方 白血球のカウント	
25～ 26	組織③		主要臓器の組織標本の見分け方 筋肉、骨、胃、腸、肝臓、心臓、肺	
27～ 28	組織④		主要臓器の組織標本の見分け方 腎臓、膀胱、精巣、卵巣、脾臓、甲状腺、副腎、下垂体	

回	テ　　マ	内　　　容		
29～ 30	期末試験	筆記試験実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 第1巻		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護学実習Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	本山 みれな
授 業 の 概 要				
看護の基礎知識、基礎技術を身に付ける。				
授業終了時の到達目標				
基本的な看護の基礎知識・技術を身に付ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	佐賀県の動物病院で2年間動物看護師として勤務			
時間外に必要な学修				
授業の振り返りをレポートにまとめ提出				
回	テ ー マ		内 容	
1	導入		導入、飼育実習の説明	
2	厳しめの保定		犬猫の駆血保定	
3	投薬①		投薬方法、針、シリンジについて	
4	投薬②		ワクチン準備	
5	糞便検査		糞便検査手技、採便方法、実習	
6	尿検査		尿検査手技、採尿方法、実習 フィラリア予防	
7	血液検査①		血液検査について、採血と保定	
8	血液検査②		血液検査について、白血球カウント	
9	血液検査③		血液検査について、マイクロチップ	
10	輸液①		輸液について（目的、輸液ライン、皮下点滴、三方活栓）	
11	輸液②		輸液について（留置針、輸液ポンプ、シリンジポンプ）	
12	輸液③		輸液について（計算） A:ノミ・マダニ予防	
13	輸液④		輸液について（計算） B:ノミ・マダニ予防	
14	実技試験		実技試験（保定・vac）	

回	テ ー マ	内 容		
15	期末試験	筆記試験実施（持ち込み可）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト		実習・実技評価 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物愛護・適正飼養実習Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	本山 みれな
授 業 の 概 要				
学校スタッフ犬猫の飼育、管理を通して、実践的な飼育技術を身につける。				
授業終了時の到達目標				
学校スタッフ犬猫の飼育及び管理を通して、飼育技術を身につけるとともに、小さな変化にも気づき適切な対応ができるようになる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	佐賀県の動物病院で動物看護師として2年間勤務			
時間外に必要な学修				
常に動物の健康状態を観察すること				
回	テ ー マ	内 容		
1～15	飼育実習	スタッフ犬猫の飼育及び管理、看護実習室の管理		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護学テキスト		課題・レポート	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物看護総合実習Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	0.75単位（30時間）	必須	田上 真紀
授 業 の 概 要				
「働くこと」を自分のことのように捉え、自分らしい「キャリアの在り方」についての洞察を深め、将来社会に出て実践できるように、社会人として求められる姿勢や資質・能力を身につける。				
授業終了時の到達目標				
①自己のキャリアを考える上での基礎的理解ができ、仕事選択のやり方を習得できる。 ②「自分らしさ」についての理解を深め、それを表現し、言語化・文章化できる。 ③仕事で求められる心構え・姿勢や能力が理解でき、それを学習活動につなげられる。 ④仕事選択を身近に考えるようになり、キャリア・プランを具体的に立てられる。 ⑤チームでのワークを体験することによって、社会人に求められる基礎能力を身につける。 ⑥校外研修に向けた履歴書を作成できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		岡山市内の動物病院で1年、広島市内の動物病院で3年半獣医師として勤務		
時間外に必要な学修				
授業中にやり残した課題を実施する				
回	テ ー マ		内 容	
1	春の研修に向けた履歴書準備		春の研修に向けた履歴書準備	
2～4	わんわんフェスタ準備		わんわんフェスタのイベント及びブースの企画・準備	
5	穴吹祭準備		穴吹祭の企画・準備	
6	履歴書準備		履歴書を作成する	
7	履歴書準備		履歴書を完成させる	
8	研修に向けての導入 自分と向き合おう		就職活動について、研修とは 履歴書の内容を考えるための鍵を見つけよう	
9	求人票の見方、保険について 研修先の探し方		求人票の見方、保険について 研修先の探し方、実際に探してみる	
10	研修先を決めるには		研修先を決めるポイントを考える	
11	研修先のリストアップ		研修希望先をリストアップして提出する	
12	研修先の決め方		電話のかけ方	
13	研修前準備		履歴書、依頼文、保証書 等	
14	研修先訪問 研修後にすべきこと		研修先への訪問、お礼状の書き方	
15	期末テスト		レポート	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		課題・レポート	100.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
トリミング実習Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	角田 有優美
授 業 の 概 要				
道具と犬体の扱い方、グルーミング作業の指導 授業開始前に前回の授業の反省点や良い点などを周知。 一日の目標と反省を記入するノートを作成させ復習を習慣づける				
授業終了時の到達目標				
実習準備ができるようになる。各作業の流れを理解できるようになる。 各道具の使い方が理解できるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		福山市内ペットショップスタッフ・トリマーとして3年半勤務		
時間外に必要な学修				
普段からペット美容に興味を持ち、自宅などで飼育しているペットの手入れを行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1～6	動機付け。実習の流れ、道具と犬体の扱い方、グルーミング作業を理解する		実習の注意事項を冊子で配布し、グルーミング作業の見学を行いながら実習の流れを理解する	
7～30	モデル犬のグルーミングを行う。各自作業を自主的に行えるようになる。		各種道具の扱い方。犬体の保定。グルーミングに必要な各作業を実習。3～4名で1匹のグルーミング。	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
グルーミングマニュアル		実習・実技評価 課題・レポート 期末試験	40.0% 20.0% 40.0%	実習・実技評価は 実習中の授業態度 や協調性、モデル犬の扱いなどを総合的に評価します

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ペット美容学Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	矢吹 宴
授 業 の 概 要				
ペットショップ、動物病院で求められる犬の美容技術に関する基礎知識を学ぶ。 グルーミング、トリミング実習で必要な知識を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
ペット美容学についての基礎知識・ペット美容の必要性を学び理解する。 B A S I C作業を行う基礎知識を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	トリマーとしてペットショップ店長として経験、その他ドッグショーにおいて現役ハン ドラーとして活動中。 また動物看護師としてのキャリアも持つことから、これまでの経験を活かした多方面か らのアドバイスをを行う。			
時間外に必要な学修				
普段からペットカットに興味を持って、形を意識して動物を見るようにする				
回	テ ー マ		内 容	
1	動機付け ペット美容学で学ぶこと		・ 授業担当の自己紹介 ・ ペット美容とはなにか？ペット美容学の概要説明 ・ 科目と授業の進め方、評価方法	
2	トリミング実習の注意事項 実習道具の扱い方 1		・ トリミング実習における注意事項の説明。 ・ 実習中のルールとマナー ・ 実習室の掃除のやり方 ・ 実習道具の説明	
3	実習道具の扱い方 2		・ 実習道具の説明（前回の続き） ・ 実習道具を取り扱う上での注意事項説明 ・ 実習道具に名前を書く ・ スリッカーブラシの使い方（ウィッグのブラッシング） ・ クリッパーの扱い方と替刃の掃除方法を解説	
4	実習道具の使い方 3 トリミング実習の流れ		・ 爪切りの使い方（切り方の実践） ・ カンシの使いかた（カンシに乾綿を巻く練習） ・ トリミング実習の流れを説明 ・ ウィッグのブラッシング ・ シザーの持ち方の説明	
5	グルーミングB A S I C作業 1 「ブラッシングの基礎知識		トリミング実習におけるブラッシングについて説明 ・ ブラッシングとは何か ・ ブラッシングの目的 ・ 使用するブラシの種類 ・ ブラッシング時の注意 ・ ウィッグのブラッシング	
6	グルーミングB A S I C作業 2 「ベイジングの基礎知識 1」		トリミング実習におけるベイジングについて説明 ・ ベイジングとは何か ・ ベイジングの目的 ・ 使用する液剤の種類	

回	テ ー マ	内 容
7	グルーミングBASIC作業2 「ベイジングの基礎知識2」	前回授業の復習と続き ・ベイジング時の注意（ケガと予防） ・ベイジングのスキルアップのコツ ・動画にてベイジングの解説
8	グルーミングBASIC作業3 「ドライイングの基礎知識」	トリミング実習におけるドライイングについて説明 ・ドライイングとは何か ・ドライイングの目的 ・ドライイング時の注意 ・ドライイングのスキルアップのコツ
9	グルーミングBASIC作業4 「クリッピングの基礎知識」	「トリミング実習におけるクリッピングについて説明 ・クリッピングとは何か ・クリッピングの目的 ・クリッピング時の注意 ・クリッピングのスキルアップのコツ
10	グルーミングBASIC作業5 「トリミングの基礎知識」	トリミング実習におけるトリミングについて説明 ・トリミングとは何か ・トリミングの目的 ・ペットクリップについての説明 ・シザーの名称と扱い方 ・ウイッグのトリミング練習
11	グルーミングBASIC作業6 ・「リボン付けの知識と練習」	トリミング実習における「リボン付」について説明 ・リボンのつくり方とつけ方の練習
12	グルーミングBASIC作業7 「モデル犬の保定」	トリミング実習における「保定」について説明 ・保定とは何か ・骨と関節について説明 ・犬が嫌がらない保定のコツ ・口輪と拘束について
13	トリミングBASIC1 「トリミング犬種のペットクリップ1」	一般的な犬種のトリミング技法の基礎知識 ・テディベアカット ・シーズ、マルチーズ ・ウイッグのトリミング練習
14	トリミングBASIC2 「トリミング犬種のペットクリップ2」	一般的な犬種のトリミング技法の基礎知識 ・ケネルクリップ ・ポメラニアン ・シュナウザー他 ・ウイッグのトリミング練習
15	期末試験	期末試験
教科書・教材		評価基準 評価率 その他
JKCグルーミングマニュアル		期末試験 確認テスト 課題・レポート
		70.0% 20.0% 10.0%